長洲町立長洲小学校　校長便り　№22

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和4年7月4日(月)

独り言

先日、ある会社の社長さんとお話する機会があった。学校経営に関する多くのヒントを頂いた。これは客観的視点からの指摘を受けるということであり、真摯に受け止めなければならない。

スキルは真摯に努力すれば身に付くことと、現場の私達が組織としてチャレンジしなければならないことは働き方改革であるという指摘を頂いた。私は働き方改革イコール意識改革だと捉えている。行動と意識は繋がっているからだ。しかし、意識改革というものはなかなか難しいものだと感じている。「だって仕事が…」とボヤいたところで仕事は終わらない。マイナス思考では絶対に働き方改革は為し得ない。意識をコントロールし、業務に軽重をつけることが重要であると思う。

【雑感】今の子ども達に必要なこと

「食べる」ことと「知識を得る」こと、これは人間が文化的な生活を送るために、必要不可欠なことです。個人的に常日頃から思っていることを、「食べる」ということと、読書による「知識を得ること」についてお話してみます。

まず、「食べる」ということですが、いうまでもなく活動するためのエネルギーを得るものであり、成長期の子ども達にとっては欠かせないものです。最近では食生活の乱れ、特に朝食習慣の乱れは大変憂慮されることとなっています。性能の良い自動車でも、ガソリンを入れなければ動きませんね。人間も同じです。朝から食事を摂ることで内臓の働きがよくなり、全身の血流もよくなり、結果として脳への血流も活発になり、学習の成果も上がってくる訳です。食事と学習は密接につながっているのです。だからこそ私達大人は、未来を担う子ども達へ「食べることの重要性を訴えていかなければなりません。大局的に考えれば、食育は日本を作るということにもなるのです。近い将来、食生活の乱れによる病気が子ども達を蝕むと考えられます。だからこそ、国家の危機として国を挙げて食育に取り組んでいるのです。

次に、読書です。私は毎日?寝る前に一〇分間読書を実践しています。最近、眠くて中々できていませんが…。しかし、情報を得るためにはどうしても読書は必要です。最近はインターネットで情報は得られるじゃないかといわれますが、そこにも文字の情報がたくさんならんでいます。ということは、文字が読めなければ、また読解ができなければ、情報を得ることができないということです。それだけ、読書は重要なのです。しかしながら、日本の子ども達の読書の量は多いとはいえません。憂慮すべき事態となっています。

私は教諭時代の目標として「子ども達に年間七〇冊の本を読ませる。」ことを掲げていました。内容によりますが、じっくりと読書に取り組むことは、人格形成にも良い影響が出ることは明らかです。

シリーズ「自分を語る」#22

高校時代何に興味があったか…、実はあまりこれが大好きというような拘りはなかったです。世の中には元気があった時代です。私も何となく原付免許をとり、友人からバイクを借りて乗っていました。当時はまだ原付のヘルメット着用は義務化されておらず、考えてみれば危険な時代だったです。アイドルと呼ばれる芸能人が乱立する時代でもありました。今のように大人数の「〇〇㊽」というようなものではなく、アイドルとは別世界にいるような人というイメージが強い時代でした。だからでしょうか、カリスマ的な雰囲気を持つ人達も現れた時代でした。

この頃、大学受験というぼんやりとした脅威がありました。遊んでいるようで、実は勉強していた!なんて子がいると、何となく嫌な感覚が私を襲いましたね。小学校時代の仲間が入っていた文化部に顔を出すなど、何となく過ごした高校時代だったように思います。中学高校と硬派を気取ってた?つもりでしたが、高2くらいから、何となく異性が気になるようになり、それが影響してか、受験勉強もそこそこに、行けそうな?大学に進みました。浪人を親から勧められたにも拘らず、勉強が嫌で「受かりそうだった」という理由から、県外の大学を受験することにしたのです。

大学に入学してからは、「教員免許が取れればいいや。教育学部に入ったから先生にはなれるでしょ。」ぐらいの甘い考えでいましたから、勉強はさせられていたという感じでした。勉強(単位取得)については全て他力本願で、自分で判断して何かをしようという積極性はありませんでした。時間割も仲間と同じにして、何となく講義に参加していました。だから、成績もパッとせず、単位取得が難しい講義は、ことごとく落とし、再履修する羽目になりました。再履修って簡単に言いますけど、経済的な損失は大きいものがありますからね。それぐらいいい加減な学生生活でした。今でも、あの時学習したことはあまり役に立っていません。というより、大学生活って、大人になるための訓練だったような気がしています。負け惜しみですが、我々の仕事は現場で子ども達に向き合わなければ、スキルアップしていけません。

そんな学生生活の中でも、2つのめり込んだものがあります。それは、部活とバイクです。部活への参加は、今の自分の性格や仕事に対する意識にかなり影響を与えているように思います。

入学式後、確か当日だったと思います。私は「少林寺拳法部」に入部しました。当時、格闘技に興味があり、更にブルース・リーやジャッキー・チェンが人気を博していた頃で、私ものめり込んだ訳です。私は大学に何をしに行ったのかと聞かれれば、正直勉強が部活か、どちらかと言えば部活でした。一生懸命やった分、結果も付いてきましたね。(ここから自己満足の自慢です。)2年生の時、県大会で先輩と有段者組演武の部で優勝し、そのまま三連覇しました。全国大会にも出場し、有段者組演武の部で、ベスト⑯まで進みました。

ここからが少しシビアな話。結果を出すことができ、先輩から主将を任されたのは2年の終わり頃、リーダーシップを発揮することの難しさを痛感する時間になりました。同級生同士の人間関係の調整、先輩後輩の関係調整、監督との話し合い、道院(町なかの道場)との調整、後輩指導の方法、飲み会の作法…、多くの場面で主将として行動しなければならないことがたくさんありました。当時の私は「天狗」になっていて、女子部員と口論になることが多かったです。良かれと思ってやることが、裏目に出ることが多かったです。部活での経験は、今でも良い思い出で、少なからず自分の行動に影響を与えています。このように部活動一色だった大学時代ですが、先にも述べた通り、もう一つのめり込んだものがあります。それがバイクです。　(つづく)

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。(「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　)